

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 26 年 8 月 28 日 (2014.8.28)

【公開番号】特開 2012-126884 (P2012-126884A)

【公開日】平成 24 年 7 月 5 日 (2012.7.5)

【年通号数】公開・登録公報 2012-026

【出願番号】特願 2011-200608 (P2011-200608)

【国際特許分類】

C 1 1 D 17/08 (2006.01)

C 1 1 D 3/20 (2006.01)

C 1 1 D 1/75 (2006.01)

【F I】

C 1 1 D 17/08

C 1 1 D 3/20

C 1 1 D 1/75

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 7 月 14 日 (2014.7.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

特許文献 4 には、親油性物質としてジプロピレングリコールモノブチルエーテルを含有する浴室で遭遇する汚れの除去に適した水性クリーニング組成物が開示されている。しかし、ジプロピレングリコールモノブチルエーテルは組成物の粘性を上げるためのハイドロトロブ剤として配合されているのであり、特許文献 4 では親油性物質の洗浄効果については何ら示唆していない。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

【特許文献 1】特開 2 0 0 8 - 4 5 1 0 8 号

【特許文献 2】特開 2 0 0 0 - 2 9 0 6 9 9 号

【特許文献 3】特表 2 0 0 3 - 5 0 6 5 6 1 号

【特許文献 4】特表 2 0 0 1 - 5 2 4 5 9 2 号

【特許文献 5】W O 9 3 / 0 4 1 5 1 号

【特許文献 6】特表平 1 1 - 5 1 1 8 0 0 号

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

( a ) 成分と、( b ) 成分及び後述する ( c ) 成分の合計量との質量比として、( a ) / ( ( b ) + ( c ) ) = 1 / 1 ~ 1 5 / 1 が好ましく、1 . 2 / 1 ~ 1 4 / 1 がより好ま

しく、 $1.5/1 \sim 13/1$ が更に好ましい。油污れに対する洗浄力の観点から $1/1$ 以上が好ましく、 $1.2/1$ 以上がより好ましく、 $1.5/1$ 以上が更に好ましく、高温保存安定性の観点から $15/1$ 以下が好ましく、 $14/1$ 以下がより好ましく、 $13/1$ 以下が更に好ましい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

(c)成分の含有量は、本発明の硬質表面用液体洗浄剤組成物中において $0.01 \sim 15$ 質量%であり、 $0.05 \sim 1$ 質量%の範囲が好ましく、 $0.1 \sim 0.7$ 質量%の範囲がより好ましく、 $0.1 \sim 0.5$ 質量%の範囲が特に好ましい。保存安定性の観点から $0.01$ 質量%以上であり、 $0.05$ 質量%以上が好ましく、 $0.1$ 質量%以上がより好ましく、洗浄性の観点から $15$ 質量%以下であり、 $1$ 質量%以下が好ましく、 $0.7$ 質量%以下がより好ましく、 $0.5$ 質量%以下が特に好ましい。(c)成分としてセッケンを除くアニオン性界面活性剤を用いる場合、当該含有量としては $0.02 \sim 0.6$ 質量%がより好ましく、 $0.1 \sim 0.5$ 質量%が更に好ましい。(c)成分として両性界面活性剤を用いる場合、当該含有量としては $0.1 \sim 0.6$ 質量%がより好ましく、 $0.3 \sim 0.5$ 質量%が更に好ましい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

[変性大豆油污れの作成法]

市販大豆油(和光純薬工業品を使用。購入後3ヶ月以内のものを使用)をステンレス製50mLビーカーに40mL加え、上部を大気開放した状態で180℃1時間加熱し、室温( $25 \pm 5$ )に自然冷却した。この熱処理油99質量部に対しオイルオレンジSSを1質量部添加し、室温でよく混合した。このモデル汚れをステンレス板に1平方センチメートルあたり $1.4 \sim 1.6$ mgとなるようにできるだけ均一に塗布し、室温で1週間放置した。この汚れを洗浄評価に用いた。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

(洗浄性能II)

市販大豆油(和光純薬工業品を使用。購入後3ヶ月以内のものを使用)をステンレス製50mLビーカーに40mL加え、上部を大気開放した状態で180℃50hr熱処理(電気恒温機使用)し、室温に自然冷却した。この熱処理油99質量部に対しオイルオレンジSSを1質量部添加し、室温( $25 \pm 5$ )でよく混合した。このモデル汚れをステンレス板に1平方センチメートルあたり $1.4 \sim 1.6$ mgとなるようにできるだけ均一に塗布し、直ちに上記と同様の洗浄評価を行った。